



瀬戸駅構内(大正10年頃)

瀬戸蔵ミュージアム 瀬戸電開通120年記念特別企画展

# せとでん

名鉄瀬戸線

## やきものの街・瀬戸と歩んだ120年

Seto Electric Railway: 120 years of history with Seto, the city of Pottery

瀬戸自動鉄道株式会社は明治35年(1902)に設立され、同38年(1905)4月2日に瀬戸・矢田間が開業しました。同39年(1906)に瀬戸・大曾根間の電化全通を機に瀬戸電気鉄道株式会社と改称し、それ以降は「せとでん」と呼ばれ親しまれました。せとでんの創設時の主要株主には、明治・大正期の瀬戸窯業界を代表する窯業家である加藤左左衛門や加藤紋右衛門らが名を連ねていました。瀬戸の陶磁器製品を大曾根での官営鉄道への連絡および堀川の水運を通して名古屋港から積み出すことに加え、瀬戸へ焼成燃料を搬入するという産業発展への貢献が大きな使命でした。

昭和14年(1939)、名古屋鉄道との合併によりその路線は名鉄瀬戸線として現在に至っています。

戦後、やきものの輸送はトラックが主流となり当初の役割を終えますが、昭和53年(1978)に名古屋の都心である栄町駅への乗り入れを果たし、利用者の利便性を高めたことは沿線に住む人々の生活に活気をもたらしました。

本展ではせとでん開通120年となるのを記念して、市民公園に展示されていた「デキ202号」および「モ766号」の車両部品に加え、様々な資料や写真を通して、せとでん120年の歩みを振り返っていきます。



御大典奉祝記念乗車券(昭和3年)当館蔵



2220形(昭和48年)撮影/鈴木政成



デキ202とデキ375(昭和53年)撮影/山田 司



モ766号(昭和50年)撮影/鈴木裕幸



瀬戸線栄町乗り入れ(昭和53年)撮影/大林幸男



モ766運転台(令和4年)撮影/山田 司



瀬戸市民公園(令和4年)撮影/山田 司

### 関連イベント

\*事前申し込み不要、参加無料(要入館料)

#### 水野アー 版画ワークショップ

日時: 2025年5月5日(月・祝)・7月27日(日) 13:00~15:00

場所: 瀬戸蔵ミュージアム内 窯垣広場

定員: 先着20名



体験日: 5月5日(月・祝)

体験日: 7月27日(日)

駅員さんになろう!! 名鉄駅員制服を着用して、4000系横断幕の前で記念撮影できます。

日時: 2025年5月5日(月・祝) 9:30~12:00、13:00~16:00 場所: 瀬戸蔵ミュージアム内 窯垣広場

### 近隣施設のご案内

\*休館日等詳しい情報は各館へお尋ねください。

#### 瀬戸市美術館

TEL 0561-84-1093

※2025年2月24日(月)から4月18日(金)まで臨時休館

●せとものフェスタ2025 瀬戸市美術館特別展「第5回 瀬戸・藤四郎トリエンナーレー瀬戸の原土を活かしてー」  
2025年4月19日(土)ー6月15日(日)

#### 瀬戸市新世紀工芸館

TEL 0561-97-1001

●展示棟企画展「薄明ー長野史子、矢野容子、木下結衣 ガラス作家3人展ー」 2025年4月2日(水)ー6月8日(日)

#### 瀬戸染付工芸館

TEL 0561-89-6001

●企画展「瀬戸染付 人物黄昏之図」 2025年4月5日(土)ー7月27日(日)

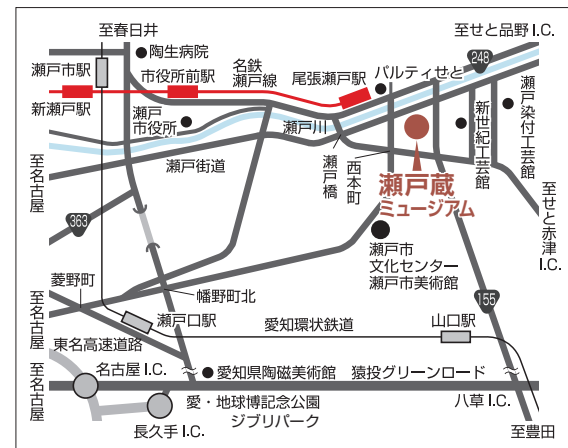
#### 愛知県陶磁美術館

TEL 0561-84-7474

●リニューアルオープン記念「新シユウ蔵品展ー美術館シユウシユウのあれこれ」  
2025年4月1日(火)ー5月6日(火・振休)

●盛田昌夫コレクション寄贈記念 特別展「イタリアの磁器ーリチャード・ジノリのクラシックとモダン」  
2025年5月17日(土)ー7月27日(日)

### 会場案内図



(交通アクセス)

名鉄瀬戸線「尾張瀬戸駅」から徒歩5分

名古屋瀬戸道路「長久手I.C.」(東名高速道路日進JCT経由)から約15分

東海環状自動車道「せと赤津I.C.」から車で約10分

※駐車場189台[有料(最初の1時間無料。以降1時間毎に100円)]



**瀬戸蔵ミュージアム**  
SETO-GURAMUSEUM

〒489-0813 愛知県瀬戸市瀬所町1番地01 TEL (0561) 97-1190  
URL: <https://www.city.seto.aichi.jp/docs/2011/03/15/00092/>

